

SciREXセンターインタビューの声 2022

2023.6

SciREXセンター

SciREXセンターインターンについて

◆目的

- 政策研究、政策実務に関心のある学生に対し、実践的な業務経験を提供することにより、学生の皆様の学修の深化に寄与するとともに、政策研究、政策実務に対する理解を深めていただき、当分野に携わる人材の裾野を拡大するため、インターンを募集しています。

◆修了要件

- 修了前にプロジェクトリーダーとSciREXセンターに対して、研究・調査内容についてその成果を報告
- 修了に必要な勤務時間は、70時間

◆実績（直近5年）

2018年度	8名	東京大学、東京外語大学、中央大学、一橋大学、GRIPS、留学前ギャップイヤー
2019年度	8名	東京大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、慶應義塾大学、津田塾大学、Haverford College
2020年度	15名	GRIPS、東京大学、京都大学、一橋大学、名古屋大学、慶應義塾大学、Mount Holyoke College、Soka University of America、Columbia University、Cornell University
2021年度	4名	京都大学、千葉大学、Soka University of America、Pomona College
2022年度	3名	千葉大学、 <u>Soka University of America</u> 、 <u>Pomona College</u>

(注) 実績は、当該年度にインターンを開始した学生について集計。
ただし、2022年度は新規の募集はなく、2021年度からインターンを継続した者（下線）。
2023年度の募集については未定。

河野 宏紀さん（千葉大学）

プロジェクト:

「レジリエントな産学連携とイノベーション・システムのためのエビデンス」

私はインターン生として、主にパンデミックが産学連携に及ぼした影響について、大学の産学連携本部や類似組織にインタビューを行うプロジェクトに参加しました。

大学では経済学(ゲーム理論、計量経済学など)を中心に学んでおり、産学連携というトピックも質的調査も初めてのものでしたが、森川先生をはじめチームの方々からご指導いただいたおかげで、何とか発表まで進めることができました。

今後も引き続きプロジェクトに関わらせていただき分析等を進めていく予定です。本インターンで学んだことを元に、さらに研究を深めて参ります。

(2022年度インターン修了)



村川 智哉さん (Pomona College)

プロジェクト:

「レジリエントな産学連携とイノベーション・システムのためのエビデンス」

私は産学連携に関する研究プロジェクトに参加させていただき、大学で達成された研究成果の事業化などを目的にした「大学発ベンチャー」の創出する価値に影響を与えている要因の分析に携わらせていただきました。

インターンシップでは、これまでに発表された産学連携に関する論文のサマリー作成業務から、「大学発ベンチャー」に関する統計分析まで幅広い業務に関わらせていただきました。特に「大学発ベンチャー」に関する分析では、データセットを作成する段階から、分析結果から得られる示唆をまとめるところまで経験することができ、データ分析に関して包括的に理解を深めることができました。

末筆ながらプロジェクトを通してご指導いただいた隅藏教授、渡邊様をはじめ多くの方に大変お世話になりました。非常に学びの多い機会をいただけたことに感謝しております。

(2022年度インターン修了)



里内 舞さん (Soka University of America)

プロジェクト:

「科学技術・イノベーション政策の経済社会効果分析の政策形成プロセスへの実装」

大学院で開発経済学を専攻する前に、経済政策に関わる分析方法や既存の研究について勉強しようと思い、インターンシップに参加させていただきました。

インターンシップでは、「科学技術・イノベーション政策における政策オプションの作成に関する先行研究のリサーチ」という大きなテーマのもと、主に次の3つのトピック: 1) 公的なR&D科学技術投資と経済効果、2) ICT投資と経済効果、3) 科学技術発展と経済格差について調査を行いました。

見慣れない経済用語や分析方法、研究論文に試行錯誤しながらも、クリティカルに先行研究を評価する視点を養うことが出来たと感じます。また、文献のまとめ方やレビュー論文の書き方など初歩な部分から細かく先生方にご指導頂き、研究者として基礎となるノウハウを身に付けることが出来ました。池内様、佐々木様、大変お世話になり、ありがとうございました。

インターンシップで学んだことを活かし、修士論文では「日本の科学技術の発展が近隣開発途上国地域の気候変動緩和に与える影響」について研究する予定です。日本の科学技術革新やイノベーション促進に繋がる研究に携わることができ、大変光栄な経験でした。約一年半、多くのことを学ばせていただき心から感謝申し上げます。

(2022年度インターン修了)

